

政党政治論 【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS211M	◎	○	△		
科目名	政党政治論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義では政党政治の諸相について、①政党間の競争②政党内の個々の議員の行動、の双方を基軸にして、国際比較と実証性を重視しつつ検討します。現代民主主義の政治は政党を中心として展開しており、政策形成を理解するためにも政党政治の分析能力が必要です。それは、企業を知らずして現代経済を理解できない事と似ているかもしれません。政党システム論と政党組織論の双方に依拠し、適宜事例を踏まえつつ（必ずしも日本とは限りません）、現代民主主義に関する理論や分析視座の習得を目指します。

受講者はこの授業を通じて、1. 政党システム論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う政党システム・議会状況の違いが、その国や地方自治体の政治・行政の展開にどのような影響を与えるのか、自ら批判的に検討できるようになる；2. 一市民あるいは一専門家として、議会状況の特徴や差異を自分自身で指標として算出でき、選挙制度によって異なる議席配分や定数配分を計算できるようになる；3. 政党組織論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う選挙制度との相互関係の中で、議員のインセンティブ構造と行動に変化が現れることを理解する（ひいては将来、一市民や一専門家として彼ら代理人とともに仕事をできる）ことが求められます。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。授業資料はこちらで用意します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子（2011）『現代の政党と選挙（新版）』有斐閣
- 待鳥聡史（2018）『民主主義にとって政党とは何か』ミネルヴァ書房
- 待鳥聡史（2015）『政党システムと政党組織』東京大学出版会
- 砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと政党の定義について。本講義全体の位置づけやゴールを説明し、本講義の主題であるところの政党の定義や多義的な側面について理解する。
2. 政党と民主主義の関係について。そもそも政党の存在は民主政治との関係においていかなる機能を果たしているのか、歴史的な否定論に言及しつつも、プロフェッショナルな観点からはポジティブな効果や機能がいくつかあることを理解する。マディソンの【多元主義】的民主主義観や、政党の機能論、民主的統制との関連が重視される。
3. 政党システムの基礎的理解。議会で競争する存在としての政党ならびに、その全体的な競争状況を表すものとしての【政党システム（政党制）】概念について理解する。古典的かつ質的なサルトルーリの分類論を理解したのち、より近代のかつ量的な指標としての【有効政党数】を紹介し、その計算方法を習得する。
5. 政党システムの規定要因の基礎的理解。なぜ国や地域や時代によって政党システムは異なり変化するのか、古典的な【凍結仮説】と、選挙制度の効果とくに【M+1】ルールについて理解する。さらに具体的に日本や地方自治体の選挙結果をもとに、制度の効果についての実証的知見を身につける。
5. 政党システムに対する制度要因の追求。様々な政治制度がその国の政党間競争に与える影響について理解する。選挙制度だけではなく、その国の執政制度も影響を与える事をしり、さらに同じ比例代表でも算出方法【ドント式】【サン＝ラゲ式】【ヘア方式】によって異なる議席数となることを、実際の算出方法の習得と併せて実感する。
6. 政党システムから政権形成について理解する。議会の政党間競争が重要なのは、それが最終的に多数派形成の基盤となり実現する/しない政策が決まるからである。議会多数派形成にかんする【連立形成理論】とくに【最少勝利連合】の概念について理解し、仮想的な状況で形成される多数派を自ら予想できるようになる（このことは現実とのギャップを見出した時に、「何が理論と違う状況をもたらしたのか」という個別の現実政治の個性を理解することにもつながる）。

政党政治論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

7. 政党政策位置の理解。政党間競争や連立形成は議席・得票数のみならず各政党の政策位置やそれに規定される政党間距離にも影響を受ける。政党政策位置をはかる複数の方法とプロジェクト（代表例としての【比較マニフェストプロジェクト（CMP）】）を知り、民主政治への含意を理解する。
8. 二大政党制と複数政党制の政党政治。政党システムの差異を一つの基軸として、リベラルデモクラシー下での民主政の多様性を論じた、A. Lijphartの【多数決型民主主義】【コンセンサス型民主主義】の議論と分析を理解する。具体的にどのような要素が接続されているか、どのようなガバナンス指標に影響を与えているのか、現実の統計分析結果をもとに読み取れるようになる。
9. 講義内容理解の定着：政党システム論を中心とした第2-7回の講義内容の定着を図る。授業進度の回復・休講/補講の対応・イベント授業との調整は、この回（に相当する回）を用いて調整する。
10. 政党組織の基礎問題。政党を一枚岩の組織としてみる前提を解体し、政党の中で存在する個々の議員の意見の多様性がいかなる形態をとるか理解する。すなわち【政党の一体性party cohesion】や【政党規律party discipline】の問題である。特に党首選出を題材に、ルールの違いが政党組織の違いに与える影響を理解する。
11. 制度と議員行動の相互関係。個々の議員が政党に従属したり反旗を翻したりするのは何故か、個々の議員の資質ではなく、制度（特に選挙制度）との連関で理論的に分析できるようになる。日本の場合は小選挙区制と比例代表制の差異だけではなく【中選挙区制】の効果理解が必要であり、また同じ比例代表制でも【拘束名簿】と【非拘束名簿】で、議員のいざくインセンティブは真逆といってよいほどに変わることを理解する。
12. 政党の支持基盤と集票。政党は単に政策提示のみによって選挙を勝ち抜くのではなく、組織として固定的支持基盤を形成したり、過去の業績に基づいて支持を集める【業績投票】。このうち【利益団体】とは何で、政党に対してどのように働きかけるのか、また政党が利益団体の意向を重視したり軽視したりするのはどのようなメカニズムによるのか理解する（「逆説明責任」）
13. 政党内政治と議会政治。政党が組織として議場行動をとるとき、各議員によって異なる異論や議論はどのように処理されるのか理解する。この際、大統領制と議院内閣制で政党内部の議論の可視化には差異があり、またそれは【委員会制】と【本会議制】によっても大きく異なってくる。関連して、党の中の【政務調査会】や【総務会】がどのような機能を果たしているも理解する。
14. 独裁体制の政党政治。本講義の前提である民主主義国家での政党政治の理解を超えて、いわゆる独裁国家における政党政治について理解を深める。現在の独裁制は多くが外形的に選挙や政党政治を展開しているが（いわゆる【選挙権威主義体制】）、これが単なる表面的な儀式ではなく、選挙・政党が独裁維持に資している事を理解する。また、事例をもちいて独裁国家の党内政治がどのようになされているか見識を広げる。
15. 講義内容理解の定着：政党組織論を中心とした第10-14回の講義内容の定着を図る。授業進度の回復・休講/補講の対応・イベント授業との調整は、この回（に相当する回）を用いて調整する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：100%（テークホームイグザムになる可能性あり）

この他、自主レポートの提出者に対してや、時節の政治的状況を用いた授業積極参加措置（昨年は参議院議席予測コンテストを行いました）に対し、プラスの加点措置を取る可能性があります。詳細は第1回授業でアナウンスします。
中井の講義形式授業は毎回試験終了後に試験解題と採点基準についてmoodleで公開しています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業最後に次回内容を予告しますので適宜予習してきてください。講義レジュメは講義前にアップロードいたします。また、事前事後学習とは座学だけではなく、本講義を通じて習得した知見をもとにして、様々な書籍や新聞を読解したり、マスメディアやネット等での政治報道に触れて自身の見解を形成することも含みます。政党や議員の行動を報ずるTV番組などを見、(規範的にはともかく)実証的な見地からして「適当な」コメンテーターなのか「適切な」コメンテーターなのか区別する等の試みもきわめて実践的な事前事後学習と言えるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 図表をスライドに投影しつつ、レジュメを基礎として授業を進行します。講義レジュメは講義前にアップロードいたします [スライドは授業後の場合もあります]
- ・ 政治学 / 政治過程論を履修し単位習得済である学生の知識レベルを念頭に授業を実施します。一部、科目担当者がうけもつ「民主主義とは何か」と内容の重複がありますが、そちらよりはより専門的な内容となっています。
- ・ 授業各回の最後に、次回内容の予習箇所を指示します。復習用として授業内資料を配布するので各自で入手してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 政党政治論は、政治学のなかでも科学的・計量的な分析が早くから蓄積されてきた分野の一つです。そのため、授業中は頻繁に数字（時には数式）が出てきますが、高度な数学的知識は必要ありませんので、驚かずに学んでください。むしろ、その「現代政治を明確に分析できる」強さや面白さを楽しんでください。

キーワード /Keywords

政党・選挙・比較政治学・実証政治学